

No.6 にじいろの学習活動

～わたしたちが寄り添えること～

社会福祉法人はるな郷 放課後等デイサービスにじいろ 小林未歩

1 はじめに

にじいろは、児童さんに寄り添い、気持ちを受け止める、ということ大切にしている放課後等デイサービスである。

対象児童さんは小学1年生から高校3年生までとしている。現在は小学5年生から高校3年生までの児童さんが利用。1日の定員は10名となっている。

2 にじいろの活動

下表は児童さんがにじいろに來所してから、帰宅するまでのスケジュールである。★マークの付いている運動・学習がメインの活動となっている。個別や集団での支援を取り入れ、児童さんご本人が過ごしやすい環境を作る、ということも大切にしている点である。今回の発表では、学習活動についてのにじいろの取り組みや、開所から現在に至るまでの活動内容の変化を、時系列に沿って報告する。

14:00頃～	順次來所・身支度・着替え・自由遊び・公園遊びなど
15:25～	★運動活動、または、★学習活動（約25分間）
16:00～	おやつ
16:25～	★運動活動、または、★学習活動（約25分間）
17:00～	帰りの身支度、帰りの会
17:30～	公用車に乗ってご自宅へ

3 にじいろが活動の中に学習を取り入れている理由

①にじいろでは、遊びや楽しいこと、好きなことをして過ごす時間を設けているが、開所当時、児童さんが來所する14時頃から、帰宅時間の17時30分までの約3時間を、遊びだけで充実させることは難しい、と判断。また、障害の特性や好きな遊びもおひとりおひとり違う、ということ踏まえ、遊びだけでなく、別の活動も取り入れる、ということを決める。

②自由時間を好きなように過ごす、という事が苦手。『何でも好きなことを！』という時間は、こちらが予想していたより、難しい事なのだと感じた。とにかく、“何か”をして過ごせるように、という理由から、学習の時間を取り入れる。

③地域の学校に併設されている学童クラブと同じように、にじいろでも宿題をする時間を設ける。

④現在、にじいろの学習活動では、職員の手作り課題に取り組んでいただいている。おこがましいかもしれないが、にじいろの学習活動の時間に、何か少しでも役に立つことがあったら、という思いがある。学習の時間、児童さんとのかかわりの中で、こういう事ができたら、と考えたり、保護者の方や学校の先生と情報共有をする中で、にじいろの学習活動の時間に取り入れられることを見つけている。

4 1年目から現在（9年目）までの取り組み

【1年目】

にじいろ立ち上げの際、まずはどのようにして時間を過ごすのかを決める必要があった。当時の児童さんたちは、椅子に座れない、テーブルや椅子を倒す、靴を投げる、高い所に登るなどの危険行為が頻繁にあった。コミュニケーションを図る手段として、玩具やパズル、テレビを一緒に見ること等で関わりを深め、児童さんを知ることに。

その後、1，2か月と一緒に過ごしていく中で、児童さんの特性や興味のあること、視覚的に入りやすいものなどを知る。ちょうどこの時期に、児童さんの興味のあるキャラクターを描いたお菓子の空き箱と、2センチほどの鈴を使ったプットイン課題を初めて作り、提供を行う。にじいろの手作り課題の始まりである。（※①）

児童さんがにじいろに来所後、児童さんご本人がどのようににじいろで過ごすのか、見て分かるように、視覚的支援を取り入れた活動スケジュール表を作成。（※②）遊びも、課題をする時間も全員一緒に、という事ではなく、個別のスケジュール表に沿って活動していただく。

また、児童さんが通っている支援学校に見学へ。教室に入ると、児童さんがみんな椅子に座り、担任の先生のお話を聞いている姿や、朝の時間に雑巾がけもしているということ（集団活動をしていること）を、その時初めて知る。学校見学の後、にじいろでも取り入れられることとして、おやつを食べたあとの始まるの会の時間は、椅子に座って過ごす、という新しいお約束を作る。（活動にメリハリをつけるため）

この時期から徐々に、椅子に座ってられる時間が延びるように。また、にじいろでも運動活動の時間に、お友達と支援員と一緒に集団活動をする時間を設ける。



※①



※②

【2年目】

2年目からは、運動活動の他に、児童さん全員で行う学習の時間も、集団活動の一環としてスケジュールに取り入れる。

集団活動の取り入れに伴い、児童さん全体に向けたスケジュールをお伝えする時間を
作る。学習活動が始まる前、どのお部屋でどの支援員と一緒に学習をするのか、見て分
かるように、写真を使って掲示。(※①) また、自立課題の種類を充実させるため、イン
ターネットのサイトで見たものを真似したり、親交のある事業所へ見学に行った際に
拝見させていただいた課題を参考にしながら、手作り課題の種類を増やす。(※②、③)

課題の提供方法：手作り課題が増えたため、片付けの時には、大きなサイズのコンテナ
に課題を並べ入れ、棚に収納。学習活動の時間になったらコンテナごと学習活動を行う
お部屋へ運び入れ、児童さんお一人お一人に、課題を2，3個配る。(※④)



※①



※②



※③



※④

【3年目】

運動活動と学習活動を、集団で過ごすスケジュールが確立。また、作業の要素を取り
入れたボールペンの組み立てや醤油さしの課題などの提供も始める。

課題の提供方法：提供する課題の準備を事前にしておいた方が効率が良いと考え、児童
さんおひとりおひとりに“学習カゴ” (※①) を作る。(今までは、学習活動の時間にな
ると、課題の入っているコンテナごと、学習をするお部屋に運び、その都度、支援員が
児童さんへ課題を配っていた)

児童さんが来所する前、その日に提供したい課題を学習カゴへ入れておき、学習活動
の時間になったら、カゴごと児童さんにお渡りする、という提供の仕方を、新たに取り
入れる。(※②)



※①



※②

【4年目～5年目】

児童さん個人の学習カゴにはプットイン課題、マッチング課題、作業要素のある課題など、4つ程の課題を準備。

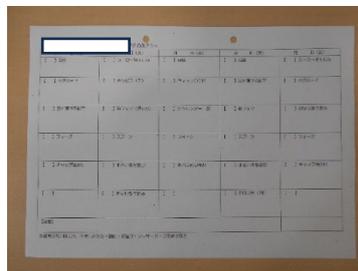
学習活動の時間は15分～20分が目安となる。また、この年の学習の時間から“声のボリューム表”を学習のお部屋に掲示。(※①)理由として、学習の時間、真剣な表情で課題に取り組んでいる児童さんもいれば、支援員とお話をしたい児童さんもいたからである。にじいろでは、学習活動の他に、遊びや好きなことをして過ごす時間を設けていること、また、お友達の気持ちを考えてみる、という経験ができれば、という思いから、学習の時間は、一生懸命課題に取り組んでいる児童さんの気持ちを優先したいと考え、学習の時間の前には声の大きさを確認してから学習活動に入ることに。

学習カゴにあらかじめ課題を準備することになってから、児童さんに合った課題を提供したい、提供する課題の質を高めたい、という気持ちが強くなっていく。また、5年目となる年に、どの課題がどの程度できるのかを知ること、難易度の高い課題にチャレンジし、成功体験を得ることを目的として、週案を取り入れる。(※②)曜日ごとに提供する課題を設定。

ビーズ通しやプットインの課題は、大きなサイズのものがスムーズにできるようになったら小さいものへ。(※③) 現在も児童さんに合わせた課題の提供ができるよう考えながら、週案の見直しを支援員で話し合い、その都度更新している。



※①



※②



※③

【6年目から7年目】

はかりを使った課題や工程の多いボールペンの組み立て等、難易度を上げた課題を提供。理由として、児童さん全体の年齢も上がり、将来を見据えたため。

日常生活において、一人で出来ることを増やしてもらいたいということ、また、お仕

事をするようになってから役に立つ事をにじいろでも経験できたら、という思いから、新しい課題作りに、力を入れるようになる。(※①、②)



※①



※②

【昨年度から現在】

ここ2、3年と、昨年度は、中学生、高校生に進級された児童さんが多い年であった。保護者の方より、制服や給食着のボタンを上手にできるようになってほしい、という意見が多くあり、にじいろの学習活動の中に取り入れることになる。(※①) ボタンを掛ける練習として、ボタンを通す穴を広くしたり、ボタンと布をつないでいる糸を長めにしたものを作る。シンプルなデザインのものだけではなく、みんなが楽しくボタンの練習ができるよう、見た目も重視。(※②) たった1つの課題でも、支援員の思いがギュッと詰まっている。制服を畳む練習にも取り組む。(※③)



※①



※②



※③

絵カードを使った課題を増やす。マッチングのほか、音の鳴るひらがなボードを使って単語にしたり、絵カードを見て文字を書く練習に取り組む。また、実物とイラストの2種類の絵カードも作った。実物かイラストか、児童さんによって、視覚的に入りやすい方を選んで提供。(※①、②)



※①

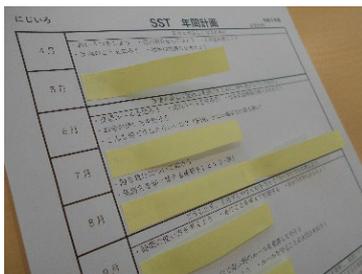


※②



※③

今年度より SST の時間を設ける。こういうところを伸ばせたら、こういうところに気を付けて生活できたら、など、児童さんによってねらいを考える。その時の場面を振り返ってみたり、実際にその環境を作って、児童さんに考えていただく時間を設ける。今まで取り組んだ例として、着替えをする時にカーテンが開いているシチュエーションや、外食先での注意点、帰りの送迎車にお友達が先に乗っており、大きな声で『ちょっとどいて!』と伝えた時のお友達の気持ちを考えてみる、など、実際の出来事を想定。(※①、②)



※①



※②

5 児童さん（2名）の個別での取り組み

【14歳 Aさんのプロフィール】

- ・障害児支援区分3
- ・療育手帳A2
- ・にじいろ8年目
- ・知的障害、発達の遅れ
- ・音に敏感
- ・突発的に走り出すと、とても速い
- ・ヨーグルト、ジュース、天津飯、散歩、音楽が好き（おそらく）
- ・ヨーグルトやゼリーをスプーンですくって食べられる（支援員と一緒に）
- ・トイレに行きましょう！と伝えると、トイレのマカトンサインができる

当時、小学生だったAさんは、1度の学習活動の時間に多くの離席あり。離席の理由として、児童さんと支援員を合わせた約10名が、学校の教室よりも狭いお部屋にて活動。複数名の児童さんが一台の机で課題に取り組んでいたため、周りの人や音が気になる、学習の時間の終わりが分かりにくい、ということを経験として考える。(※①、②)

このような点を踏まえ、ご本人に課題の始まりと終わりが分かるよう、提供方法の見直しを行う。

改善した環境：個室にて支援員とご本人がマンツーマンで課題に取り組む

改善した課題の提供の仕方：1つの学習カゴに、課題を1つだけ入れたものを準備し、ご本人の左側へ、カゴごと積み上げる。ご本人と一緒に学習カゴを机に持ち運び、課題に取り組む。(※③) 課題を終えたら、再び課題を学習カゴに戻し、ご本人の右側に置く。左側に積み上がっている課題が終わるまで、順番に課題に取り組んで頂く。(※④) 左側に積み上がっていた課題が全て右側に積み上がったら終わり(※⑤)という支援方法で、学習の時間を過ごすようにする。

数か月、こちらの方法を取り入れた結果、離席が減少。また、課題の始まりから終わりまでが分かりやすいようで、集中できる時間も伸びたようであった。



※①



※②



※③



※④



※⑤

【15歳 Bさんのプロフィール】

- ・障害支援区分1
- ・療育手帳A
- ・にじいろ9年目
- ・自閉スペクトラム症
- ・CDやYouTubeで好きな音楽が聴きたい(オブラディオブラダ、きよしこのよる他)
- ・パズルを完成させるのがとても早い
- ・ひらがなと数字がすぐ読める(運筆は練習中)
- ・心配なことや気になる事が多く、聞きたい答えを聞けると安心
- ・写真や文字でのスケジュールを見て見通しが立てられる

当時小学生だったBさんは、学習の時間、ある時期から特定の課題を繰り返し何度も行う。学習活動の約20分間、1つの課題だけをして過ごすよりも、色々な課題を経験してもらいたい、という思いから、学習活動の見直しを行う。また、にじいろの課題を“自立課題“として、自分の力で、お一人で、始めること、進められること、終わることができたらと思い、小学5年生より、課題のスケジュール表を作り提供。(※①)

また、気になる事や知りたいことに対しての質問が頻繁に。学習の時間は、大きな声でのお話を控えること、周りのお友達も真剣に宿題や課題に取り組んでいる、という理由から、スケジュール表の下に“ぜんぶおわたたらおはなししようね”のメッセージを添える。

当時Bさんは、ひらがなに大変関心があった。その時の学びである、ひらがなの読みもしっかりとされていたため、メッセージのお約束はご本人の中にスッと入っているようであった。(※②)



※①



※②

6 最後に

にじいろの立ち上げ当初から、現在に至るまでの学習活動を一通り紹介させていただきました。

にじいろは今年で9年目を迎えている。この9年で、学習活動に対しての思いに様々な変化があった。学習の時間を充実させたい、という思いは根底にあるが、私自身、児童さんに対して、指導をしたい、何かを教えたい、というわけではない。また、課題に取り組んでいただいている時間、本当は課題をしたくない、という児童さんもいらっしゃるかもしれない。自分の思いを言葉にして伝えることが難しい児童さんも多いため、児童さんの本当の思いは、きっと理解できていない事も多いはずである。

でも、児童さん達にとって何がよりよいのか、ずっと考え続けることはできる。児童さんの心の中には、まだ私たちが気付けていない、素晴らしい力が隠れている。それらをどのようにして引き出し、表現していただくのか。私たち支援員が求められていることではないだろうか。

にじいろでの学習活動の時間、“できたね”、“じょうずだね”、“かっこいいね”のやり取り中で、信頼関係を築き、また、児童さん自身が個性を十分に出せる環境づくりに努め、放課後の時間が少しでも楽しい時間となるよう、これからも支援員というお仕事に誇りをもって続けていきたい。